

会報で知る東京野高会の歴史

東京野高会会報は 1990 年(平成 2 年)第 1 号を発行、2019 年(平成 31 年・令和元年)第 30 号で最終号となった。



1981 年(昭和 56 年)10 月 第 1 回東京野高会総会 スピーチする初代会長の浜中英二氏(市ヶ谷会館)

2019 年 6 月 18 日発行 第 30 号 東京野高会会報 最終版

東京野高会沿革を踏まえ原点に戻せ

東京野高会会長 川村 賢 司(新制 12 回生)

東京野高会の沿革の発端は昭和 40 年に始まった野中有志の会でした。世話人代表に浜中雄太郎氏(旧 1 回生・衆議院農林委員会)で 30 人程の会でした。その 2 年後、正式に第 1 回東京野中会が、会長浜中雄太郎氏、副会長浜中英二氏(警察庁近畿地方本部長)、事務局長立崎亮吉氏(旧 18 回生・弁護士)の体制で発足し、昭和 55 年まで 14 回の総会を行っています。この間に事務局補佐として新制野高卒業生の宮澤廣志氏(新 5 回生)、戸田憲章氏(新 8 回生)、村木啓祐氏(新 10 回生)、川村賢司(新 12 回生)、上地国彦氏(定 14 回生)等が加わり、立崎法律事務所を事務局として、既に新制卒業生の参入を意識し動き始めていました。そして昭和 56 年 10 月に旧制野中会、野高女会、及び新制野高卒業生 3 校合同の同窓会が生まれたのです。

新生第 1 回東京野高会々長は浜中英二氏で、市ヶ谷会館にて約 130 名の会員を集めて盛大に発会式を挙げたのです。初代浜中会長は 9 年間重責を担い、2 代目の野村道太郎氏(旧中 13 回生)は 2 年間会長として

続き、3 代目会長は野坂和彦氏(旧中 16 回生、秩父セメント社長)で、2 年間引き継ぎました。第 4 代目は初めて新制野高卒 5 回生の宮澤廣志氏で、第 29 回か

ら 34 回まで 7 年間、会長として発展に努めました。第 5 代目の戸田憲章氏(設計事務所代表)は第 35 回から 44 回目までの 10 年間、同窓会維持に多大な貢献をされました。6 代目の横濱征四氏(新制 12 回生、情報科学研究センター)は 2 年間激務を担っていただきましたが、志半ばで病魔に冒され退任を余儀なくされました。任期途中から代行してくれたのは副会長の上地国彦氏(定 14 回生)でした。7 代目として小生、川村賢司が第 48 回から平成最後となった 54 回まで何とか維持に努めてきましたが、そろそろ体力・知力に限界を感じてきております。

今のところ次期会長の候補者がなく苦慮しており、同窓会の今後の在り方についても、この一年、理事会で検討を続けて参りました。東京野高会を立ち上げた原点に戻り、野辺地高校卒業生の溜り場的発想で親睦会のように気軽に集まれる同門会が可能であれば、これに勝るものはないと願っております。



東京野高会発足 50 周年

2015 年(平成 27 年)6 月 27 日 アルカディア市ヶ谷

2015 年 5 月 20 日発行 第 26 号 東京野高会会報

東京野高会誕生の秘話

東京野高会 会長 川村 賢司

今年は東京野高会発足 50 周年に当り、支部の東京野高会誕生に至る数々の秘話をご紹介します。ここに登場する中心人物の多くは既に物故由であります。

時は昭和 40 年(1965 年)、旧制野中第 1 回卒業の浜中雄太郎氏(元衆議院議員)の発声で、野中卒業の仲間を集めての懇親会を上野韻松亭で始めたのが切っ掛けのようです。秘話の内容を教えてくれたのは旧中 17 回卒の立崎亮吉氏(弁護士)に負うところです。2 年間の飲会后、正式に野中会を発足したのは昭和 42 年でした。会長に浜中雄太郎氏を頂き、第 1 回から 5 回まで韻松亭で、参加者は約 35 名前だった様です。第 6 回から 14 回までは上野精養軒で開催している。

因みに野高女からは招待として、岩田ハマさん(第 2 回卒)と森岡悦さん(第 8 回卒)の 2 名が最初から参加している。当時の中心の人物は東京大学卒の兵揃えが多く、気位が高く、雑役が不得意。そこでお手伝い要員に新制野高卒にお声が掛かったのが 10 回目でした。

会合の準備は事務局長立崎先生を中心に、会場設定・飲会準備から下足番まで役まわりがあり、常に末席に控えていたものです。ところが、出欠の返事の無い会員が突然参加すると皺寄せが末席に及び、最悪の時には自分の膳も乾杯のコップもない新卒参加者があった

のです。

この憂えを旧制 11 回卒の浜中一泰氏(日本本部体育局長)に話したところ、旧中卒、野高女、そして新制卒の 3 校合同による同窓会、東京野高会として続けてやってみようか、というご意見を丁戴したのです。さっそく 3 校の有志の方々による世話人会を立崎亮吉先生を中心に先生の事務所をお借りし、事務局とし、事務局長立崎亮吉氏を中心に発足したのです。

第 1 回東京野高会は昭和 56 年に市ヶ谷会館にて、会長に浜中英二氏(元警察庁長官官房長)にお願い、参加者 160 名とで華々しく開催されました。野中会より数えると第 15 回になります。

事務局長の立崎先生の言によると、これまで 14 回目の決算はすべて赤字であり、これを補填するのにとっても苦勞されたと話され、今回初めて黒字で決算出来たととても喜んでいたのが印象にありました。

浜中英二会長は 20 回まで勤めて戴き、第 21 回会長に野村道太郎氏、旧中 13 回卒で元東北電力東京支社長でした。本来なら旧中 11 回卒の浜中一泰氏にお願いしたところ、初代、二代とも浜中姓が続いており、またとなると浜中一族の会と誤解を招くとの事由で固辞された経緯がありました。

第 26・27 回は野坂和彦氏旧中 16 回卒(元秩父セメント社長)です。第 28 回から 34 回までは初めて新制 6 回卒の宮澤廣志氏(元日本整備会長)でした。第 35 回から 44 回は新制 8 回卒の戸田憲章氏(U&A 都市計画設計事務所社長)、戸田会長により野高卒業生 2 名に金十万円ずつの奨学金制度が作られました。第 45 回から 47 回は新制に回の横浜征四氏(情報科学研究センター社長)、第 48 回以降は新制 12 回の川村賢司が重任を仰せつかっておるところです。

今後の課題としては、伝統ある野高魂を後輩に引き継ぎ、少子化の中でもしっかりと野高の伝統を守り、後輩の励みとなる同窓会たらんことを願い、更なる発展の為努力する所存であります。

第 50 回東京野高会総会懇親会



功労者表彰 池田瑞臣氏、立崎亮吉氏、戸田憲章氏

東京野高会発足 45 周年

2010 年(平成 22 年)6 月 26 日 アルカディア市ヶ谷

2010 年 5 月 31 日発行 第 21 号 東京野高会会報

東京野高会創立 45 周年を迎えて

東京野高会会長 横 演 征 四

東京野高会は、本年、創立 45 周年を迎えます。初代会長は故浜中雄太郎（元衆議院社会労働委員会事務総長）、2代目会長は故浜中英二（元警察庁長官官房長）、3代目会長は故野村道太郎（元東北電力取締役東京支社長）、4代目会長は故野坂和彦（元秩父セメント社長）、5代目会長は宮澤廣志（日本整美㈱ 会長）、6代目会長は戸田憲章（U & A 都市建築設計事務所代表取締役）、そして 7 代目会長が私である。

そもそも東京野高会は、昭和 41 年、東京野中会として、旧制中学校の卒業生を中心にスタートし、第 7 回総会に新制高校の同窓生が参加、さらに第 10 回総会に旧制野辺地高等女学校の同窓生が参加、第 16 回総会において、旧野中、旧高女、新制高校を包括して、正式に東京野高会として発足したものである。

卒業生には、モダンダンスの大御所故江口乙矢、映画監督の故川嶋雄三、彫刻家の故小坂圭二、モダンダンスの重鎮池田瑞臣、松下電器の副社長・顧問を務めた杉山一彦、音楽プロデューサーの大山禮二、円谷プロダクションでウルトラマンシリーズ、日本テレビで夏目雅子の「西遊記」を手がけた映画・演劇プロデューサーの熊谷健、糖尿病分野の権威平尾紘一、最近では俳優の吹越満などがいる。

会の目的は、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することにあるが、最近では、東京野高会奨学金を制定し、首都圏に進学する野高生の支援も行なっている。今年度で実施 11 回目を数える。

地元野辺地町に対しては、これまで、ふるさと会的な役割を担い、町の文化財の保存活動などに協力してきているが、FC（フィルムコミッション）の活動や音楽会の開催など、文化的側面における支援も行なっている。

最近、予想以上の速さで少子化が進み、いろいろな分野、領域において問題が起こっている。野辺地の場合も例外ではなく児童・生徒の数が大分少なくなっている。

本年、3 月には改正過疎法が成立し野辺地町は過疎地として追加指定された。嘗て町には市への昇格を視野に入れるほどの勢いがあったが、産業活動、地域活動などの停滞から人口が流出し目論見違いとなってしまったようだ。この点に関して私は、野辺地は、町を出て行くほど魅力がない町とは思っていない。逆に資源的の魅力のある町と思っている。野辺地の資源（人的資源、観光

資源、自然と対峙する産業（農林水産）資源など）利用の高度化ということになるが、これらについてはじっくり考えてみたいと思っている。そもそもの基本は、企業誘致の問題もさることながら、愛町心の問題に辿り着くと思う。この愛町心をいかに共有するかが課題であろう。

最近、野辺地高校に進む生徒が少なくなっているようで、定員割れの心配もあるという。しかし、その一方で文化・体育面において、目覚ましい活躍を示している野辺地高校を見ることができる。特に、スキー部の活躍は全国的であり、卒業生の一人として誇らしく感じている。これは、本人達の努力が一番であろうが、学校や地域のバックアップがあってこそ実現できたものと推察される。

また最近、地元を離れて他地域の学校に進学する子供が多くなってきているようだが、地元の子供には、地元の学校に進んで欲しいと思っている。そのためには、卒業生の活躍ぶりがひとつの目安になると思われるので、同窓の皆さんには、自分の持ち味を社会の中で、また地域活動の中で存分に発揮して欲しいと思います。このことが地域活性化にもつながると思います。

東京野高会としては、会員相互の親睦を図るとともに、母校に対しても、地元野辺地町に対しても可能な限りの支援を惜しまないつもりであります。

また、何処の同窓会も抱えていることですが、若手・中堅会員の会活動への参画が比較的希薄になっていることに対しては、このままでよいとは考えておりません。この点についても、今後、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

皆様方の暖かいご支援とご協力をお願い致します。



東京野高会発足 40 周年

2005 年(平成 17 年)6 月 18 日 ホテルメトロポリタン

2005 年 4 月 28 日発行 第 16 号 東京野高会会報

東京野高会創立 40 周年を記念して

東京野高会会長 戸田 憲 章
過ぎし日を振り返りますと、一口に 40 年は長くもあり、懐かしさいっぱい思い出の年月でもあります。

第 1 回東京野中会(旧制)設立総会が上野公園の割烹旅館で開かれ、会長に旧中第 1 回卒業生の浜中雄太郎さん(衆議院社会労働委員会事務総長)が推挙されました。出席者は約 35~36 名、多士済済の顔ぶれで素晴らしい先輩がいるなあと感じたものです。

事務局は旧中 17 回卒の立崎亮吉さんとなり、どういふ故か新制卒の私(戸田)が事務局助手にさせられて、以後 10 年余毎年の総会、懇親会の準備、案内、名簿作成に追われました。先輩方の命令により二次会まで設営し、その分毎年赤字決算となり、立崎先輩に 10 年余御迷惑のかけっぱなしでした。

第 2 代東京野中会会長には、旧中 5 回卒業の浜中英二さん(内務省、大阪万博副事務長、同和火災顧問)が就任され、同級生の北村正哉さんが青森県知事となっていましたので、浜中英二さんを東京青森県人会会長にしようとする多数派工作運動を行い、第 6 代目かの東京青森県人会会長に就任しましたが、2 年で病に倒れ逝去されました。誠に残念無念の思いでした。存命中に「第二次大戦後の卒業生が多くなっているのだから、東京野中会を東京野高会と改名し、後輩の会員を増やす方策を採るべきではないか」と発案があり、総会で了承され、今日に至っている次第です。

第 3 代会長は、旧中 13 回卒の野村道太郎さん(東北電力 取締役東京支社長)でした。

第 4 代会長は、旧中 13 回卒の野坂さん(秩父セメント社長)でした。野坂会長も 2 期目途中で病に冒され逝去されました。

第 5 代東京野高会会長に新制 5 回卒の宮澤廣志さんが就任され、事務局長時代の 10 年と会長時代の約 10 年の長きに渡り、本同窓会の整備発展に尽力いただきました。特に、浜中英二会長時代に編集された関東地区における同窓生名簿は、事後本会の基盤となっており、この紙面を借りまして、宮澤廣志さん及び当時のスタッフに敬意と感謝を重ね重ね申し上げる次第であります。

さて、10 年を一区切りとしまして、本年は 40 周年の節目にあたり、事務局、理事一同、先輩方の御協力に感謝申し上げると共に、後輩達にどんな方法で、内容で、同窓会を継承していってもらえるべきか、毎月理事会の度に議論が尽きません。

そこで、名簿整理を踏まえて、我々より後輩の新制 15 回~45 回卒の方々を掘り起こす努力をする。額が少ないですが、毎年卒業生 2 名に奨学金授与により、若い方々に同窓会の存在意義を認識していただき、近い将来会員になっていただく(この原資は野坂会長時代の同窓会基金に依拠している)。そして、東京とふるさとの思い出すだけでなく、たとえ年 1 回でも人的交流を拡大・具体化して、長く継続することによって同窓会の有意義と発展を強化していきたい。そして、社会に公正で有用な人材になってもらいたい。

以上が 40 周年記念事業の基本理念であります。

各方面の方々の御賛同、御協力を切にお願い申し上げます。

